

Annual Report 2017

2017年度 事業報告書



公益財団法人

川野小児医学奨学財団

ごあいさつ

私は当時8歳だった長男を亡くしたことをきっかけに、小児医学・医療の発展を願って1989（平成元）年に当財団を設立致しました。以来、小児医学研究者に対する研究助成や表彰、小児医学を志す医学生への奨学金給付などを行ってまいりました。当財団の活動も今年度で30年目を迎えます。ここまでこの財団が有意義な活動が続けることができましたのも、暖かいご支援、ご協力をいただいた皆さまのおかげと深く感謝しております。

当財団のAnnual reportは、そういった皆さまのお力をどのように小児医学界に還元させていただいているかをご報告いたしたく、昨年度より発行しております。本書では、2017年度の活動およびその成果をまとめております。数値だけではお伝えすることのできない、小児医学研究者の研究にかける想いや奨学生の将来への決意も掲載しておりますので、是非ご一読ください。

当財団は来年で設立30周年になります。大変ありがたいことに、これまで行ってきた活動は小児医学界においてもご評価をいただけるようになってまいりました。ただ、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する時代において、社会が取り組むべき課題も着実に増えています。30周年という節目の時期に向け、当財団の使命を改めて確認し、子どもたちの明るく健やかな成長のために何ができるのかしっかりと考え、進んでまいりたいと思っております。皆さまの引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。



理事長

川野 幸夫

株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

数字で振り返る 2017 年度の活動

研究助成



35 名
4,680 万円

奨学金給付



新規 5 名・継続 13 名
1,296 万円

小児医学川野賞



3 名
300 万円

医学会助成



5 件
250 万円

小児医療施設支援



5 件
50 万円

目次

2017 年度 事業報告

1 研究助成	
交付者一覧	4
若手枠交付者インタビュー	6
三橋里美先生 / 横浜市立大学大学院医学研究科遺伝学 「新型機器を使った遺伝子解析がもたらした、難病の原因解明への大きな一歩」	
これまでの実績	8
2 奨学金給付	
給付者大学一覧	9
給付者インタビュー	10
阿部幹也さん / 千葉大学医学部医学科 「公務員から医学生に。震災復興支援の経験から生まれた強い“想い”」	
これまでの実績	11
3 小児医学川野賞	
受賞者インタビュー	12
竹田誠先生 / 国立感染症研究所ウイルス第三部 「死に至ることもある怖い病“麻疹”。その原因解明と流行阻止に挑む」	
深見真紀先生 / 研究開発法人国立成育医療研究センター分子内分泌研究部 「最新の遺伝子解析技術を活用し、難病に苦しむ子どもたちを救いたい」	
森岡一朗先生 / 日本大学医学部小児科学系小児科学分野小児科・新生児病科 「“院内感染”に対する新たな発想が生み出した MRSA 感染対策の新スタンダード」	
これまでの実績	15
4 医学会助成	
助成先一覧	16
これまでの実績	17
5 小児医療施設支援	
助成先一覧	18

2018 年度 経過報告

1 研究助成	
交付者一覧	20
2 奨学金給付	
給付者一覧	22
3 2018 年度の募集について	
募集概要	23
役員・評議員・選考委員一覧	24
ご寄附のお願い	25

お知らせ

公式 Facebook ページを開設しました！

<https://fb.com/KawanoZaidan>

2017 年度 | 事業報告

Annual Report 2017

1 研究助成

交付者一覧

2017年度は、一般枠 47名・若手枠 42名の応募があり、2017年3月4日に開催した選考委員会の結果、一般枠 16名・若手枠 19名の計 35名の研究者の方に総額 46,800千円の助成金を交付しました。

[一般枠 16名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
古村 眞	埼玉医科大学医学部小児外科 「構造的先天性欠症に対する自律再生メカニズムの解明研究」	3,000
佐野 伸一郎	浜松医療センター小児科 「偽性副甲状腺機能低下症における (epi) genotype-phenotype correlation の解明と疾患成立機序の解明」	3,000
合山 進	東京大学医学研究所先端医療研究センター細胞療法分野 「AYA 世代白血病の病態解析と治療法の開発」	3,000
清水 正樹	金沢大学医薬保健研究域医学系小児科 「マクロファージ活性化症候群の病態解明と IL-18 を標的とした新規治療法の確立」	3,000
古道 一樹	慶應義塾大学医学部小児科学教室 「iPS 技術を利用した先天性心筋症の遺伝子型 - 表現型相関を決定する分子機構の解明」	3,000
伊丹 千晶	埼玉医科大学医学部生理学教室 「発達期における内因性カンナビノイドの作用機序の解明」	2,400
神田 祥一郎	東京大学医学部附属病院小児科 「先天性腎尿路異常 (CAKUT:Congenital Anomalies of the Kidney and Urinary Tract) の新規原因遺伝子同定—Cbwd1 (Cobalamin Synthetase W Domain-containing protein1) の腎臓発生における役割—」	2,400
朴 明子	群馬県立小児医療センター血液腫瘍科 「ダウン症候群と非ダウン症候群の一過性骨髄異常増殖症と白血病の次世代シーケンサーを用いた解析」	2,400

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
佐久間 啓	公益財団法人東京都医学総合研究所脳発達・神経再生研究分野 「microRNA の網羅的解析を起点とする急性脳炎・脳症に対する新規治療標的分子の探索」	1,500
酒井 康成	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野 (小児科学) 「誘導皮質スフェロイドを用いた早期発症型てんかん性脳症の発症メカニズムと新規治療法の探索」	1,500
福原 大介	杏林大学医学部小児科学教室 「病的血管新生に関わる新しい VEGF シグナル下流分子である T-cell specific adaptor を標的とした未熟児網膜症の創薬研究」	1,500
高橋 和浩	帝京大学医学部小児科学講座 「小児腎炎の非侵襲的組織診断方法の開発：MRI T2 マップ画像による組織診断」	1,000
渡邊 美穂	東京大学医学部附属病院小児外科 「胎児外科治療の為に In vitro シミュレーションモデル構築」	1,500
荒木 敏之	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 神経研究所疾病研究第五部 「末梢神経脱髄疾患の治療法開発に関する基礎的研究」	1,500
金井 孝裕	自治医科大学医学部小児科学講座 「新たに開発した検査装置 (細径ファイバー・超高周波数超音波顕微鏡) による腎病理診断法の確立を目指して」	1,500
柳田 紀之	独立行政法人国立病院機構相模原病院小児科 「VitaminD による RS ウイルス感染症の重症化予防効果に関するランダム化比較試験」	1,000

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

[若手枠 19名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
三橋 里美	東海大学医学部基礎医学系分子生命科学 「ネマリンオパチーの転写産物解析による遺伝子診断技術の開発—ナノボアシークエンサーによる診断困難な遺伝子変異の検出手法の開発—」	1,000
天野 日出	東京大学医学部小児外科 「小児の腸管吻合における生体吸収性補強材の開発—安全で簡便な新しい腸管吻合術を目指して—」	1,000
藤里 紘子	国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター 「子どもが自分の気持ちを大切にできるようになるために：子どものうつ病と不安症治療のための感情調整尺度—児童青年版の標準化」	1,000
加藤 基	埼玉県立小児医療センター形成外科 「小児リンパ疾患の実験的・臨床的研究」	1,000
小倉 友美	防衛医科大学校小児科学講座 「TCF3 異常による原発性免疫不全の同定と病態解析」	800
長野 伸彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科 「新生児慢性肺疾患における細胞内抗酸化物質チオレドキシンの重要性に関する研究」	800
森田 英明	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所免疫アレルギー・感染研究部アレルギー研究室 「新生児・乳児消化管アレルギーの病態に関与する細胞の同定」	800
山崎 大賀	北里大学メディカルセンター研究部門・医療環境科学センター 「顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー治療を目指したエビゲノム編集技術の開発」	800
高橋 正貴	東京大学医学部附属病院医学系研究科 生殖発達加齢医学専攻小児外科 「リンパ管腫のリンパ動態に応用した新しい光線力学治療の開発」	800
福武 麻里恵	慶應義塾大学医学部産婦人科 「ヒト羊水幹細胞を用いた周産期関連疾患に対する新規治療法の開発【ヒト羊水幹細胞シートの創傷治癒への効果について】」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
三木田 馨	慶應義塾大学医学部感染症学教室 「ナノボア型シーケンサーを用いた、トキソプラズマ原虫のゲノム疫学解析技術の開発と先天性トキソプラズマ症の病態解明」	800
藤本 義隆	東京慈恵会医科大学小児科学講座 「左心疾患に起因する肺高血圧症モデルの作製、病態解明」	500
直 亨則	国立感染症研究所ウイルス第三部 4 室 「ヒトメタニューモウイルス及びその他のパラミクソウイルス増殖に関与する宿主因子の網羅的解析—パラミクソウイルス感染症に共通する治療法開発への基盤研究—」	500
赤松 智久	国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第二部 「新生児低酸素性虚血性脳症におけるミクログリア発現 LOX-1 の役割の解明」	500
高澤 慎也	群馬県立小児医療センター小児外科 「単一切開創から行う腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術における術者の鉗子と腹腔鏡との干渉回避に関する研究」	500
原 真理子	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所免疫アレルギー感染研究部 「摘出扁桃を用いた Periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and cervical adenopathy (PFAPA) 症候群の病態解明」	500
龍城 真衣子	群馬大学医学部附属病院小児科 「小児期発症炎症性腸疾患における脂肪酸代謝と腸内細菌叢の意義」	500
岡本 圭祐	東京医科歯科大学医学部附属病院小児科 「小児期発症全身性エリテマトーデスの遺伝的背景の検索」	500
西野 智彦	埼玉県立小児医療センター腎臓科 「小児病巣感染症の口蓋扁桃細菌叢の検討及び一般培養検査と 16S rRNA 系統解析・Multiplex PCR による比較検討試験」	500

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

2017年度 助成研究成果発表会の様子



若手枠交付者インタビュー

新型機器を使った遺伝子解析がもたらした、難病の原因解明への大きな一歩



三橋 里美 先生
Satomi Mitsuhashi

横浜市立大学大学院医学研究科遺伝学
受賞時：東海大学医学部基礎医学系分子生命科学

1. ご研究テーマを教えてください。

「ネマリンミオパチーの転写産物解析による遺伝子診断技術の開発～ナノポアシークエンサーによる診断困難な遺伝子変異の検出手法の開発～」です。

2. 三橋先生がご研究されているネマリンミオパチーとは、どのような疾患なのでしょう。

ネマリンミオパチーは、先天性ミオパチーという筋肉に関する難病の一つです。この疾患の患者さんは生まれつき筋肉の力が弱く、体が細く、重症な場合は歩くこともできません。顔面の筋肉の発達が悪いという特徴もあり、嚥下や呼吸をすることも難しくなることがあります。特徴的な所見として、筋肉の中にネマリンという物質が見られるため、この名前がついています。

3. その疾患に対してどのようなご研究をされているか教えてください。

ネマリンミオパチーなどの筋肉の疾患は、原因が分かっているものも多く、病気の解明と治療法開発のためには、

遺伝子を調べるのが重要です。遺伝子は4つの塩基物質の配列によって書かれた生物の設計図で、私の研究ではこの塩基配列を読み解くことを中心に行っています。

これまで、次世代シークエンサーという機械を使い、遺伝子解析を行っていました。この機械は、遺伝子の中にある100～150の塩基物質の配列をランダムに読み込み、最終的に遺伝子全体の塩基配列を明らかにします。しかし、ネマリンミオパチーの原因となるネブリンという遺伝子は複雑な構造をしており、解析のためにはもっと長く塩基配列を読むことが必要でした。

そのため、今回の研究助成金により、ナノポアシークエンサーという新型の機器を用いて、ネブリン遺伝子の解析に取り組みました。この機械は、数千以上の塩基配列を読むことができます。結果、ネブリン遺伝子を解析することができました。

4. 今回のご研究を今後どのように発展したいか教えてください。

ナノポアシークエンサーは一度に広範囲の塩基配列を読み込むことができますが、効率的な解析方法については課題とされてきました。しかし、今回の研究を通じて多くの知見を得ることができ、その方法論を確立することができました。この成果は、ネブリン遺伝子以外の難解な遺伝子の解析に応用できると考えています。これまで疾患の原因が分からず苦しんでいた子どもたちに少しでも希望をもたらすことができるように、研究をさらに深めていきたいと思っています。

ネマリンミオパチーの症状

- 生まれつき筋肉の力が弱い
- 重症な場合は歩行や嚥下、呼吸も困難になる

原因

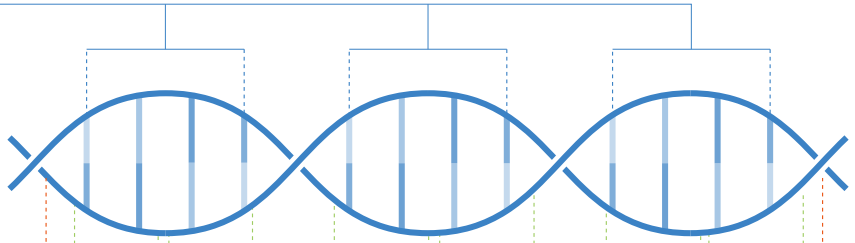
- 遺伝子の変異が原因と考えられており、現在11の原因遺伝子（ネブリン遺伝子を含む）が見つっている

治療法

- 根本的な治療法はなく、治療法開発のために原因遺伝子の解析が行われている

ネブリン遺伝子の解析方法（イメージ）

3箇所の同じ塩基配列



次世代シークエンサー解析範囲

ナノポアシークエンサー解析範囲

- ネブリン遺伝子には長い塩基配列が3回繰り返されている箇所がある
- 次世代シークエンサーは100～150の塩基配列をランダムに読み、そのデータを並び替えて遺伝子全体の配列を解析する。そのため、長い繰り返しがあると、読み込まれた塩基配列が全体のどこに位置するのか特定できない
- 今回、数千以上の塩基配列を読み込めるナノポアシークエンサーで解析を行った

2 奨学金給付

給付者大学一覧

2017年度は、新規5名・継続13名の計18名の医学生に対して、総額12,960千円の奨学金を給付しました。

[新規給付5名]

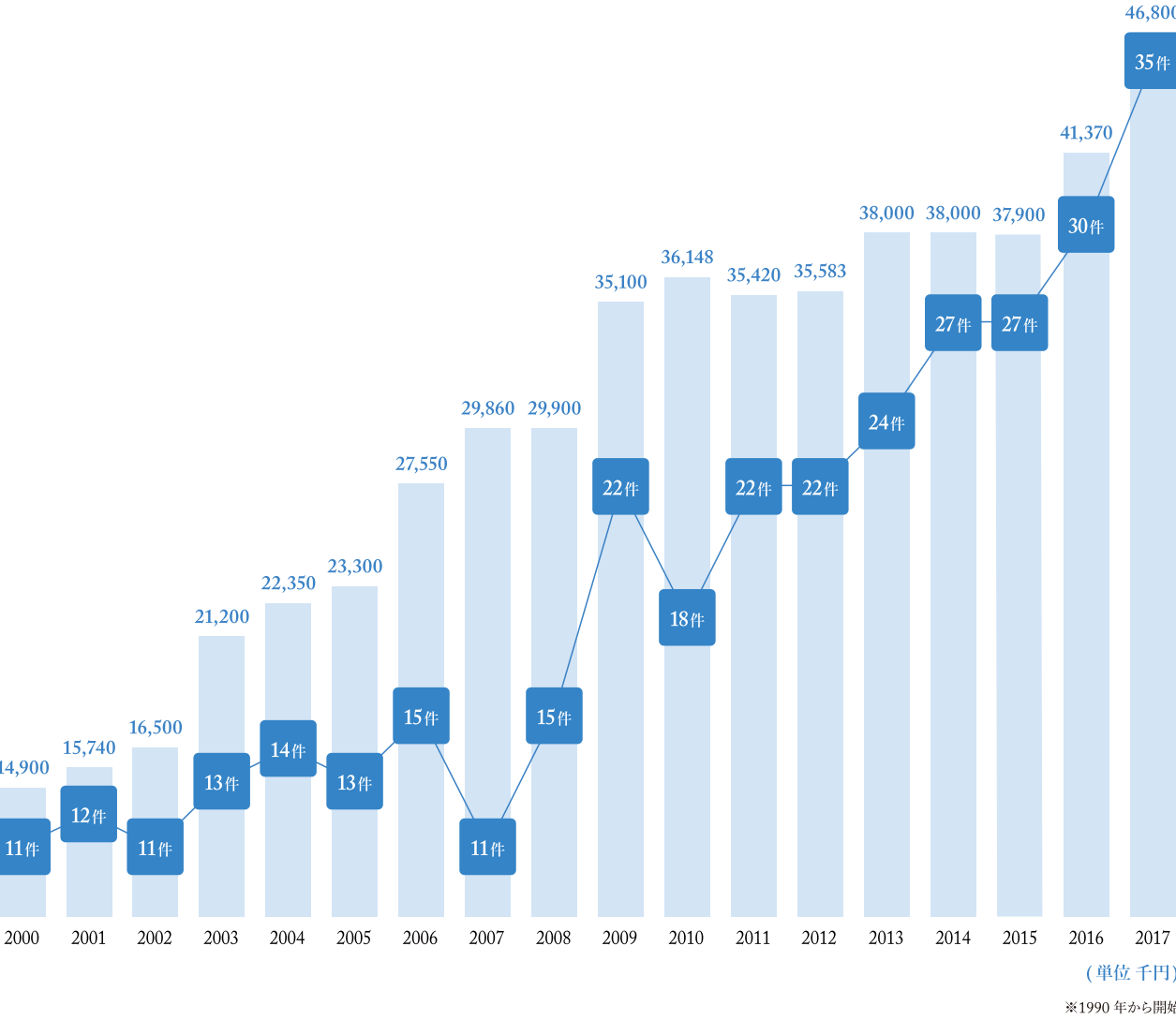
大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	1	720
慶應義塾大学	1	720
島根大学	1	720
千葉大学	1	720
福島県立医科大学	1	720

[継続給付13名]

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	2	1,440
岡山大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	2	1,440
産業医科大学	1	720
島根大学	2	1,440
順天堂大学	1	720
獨協医科大学	1	720
山梨大学	2	1,440

※五十音順

これまでの実績



給付者インタビュー
公務員から医学生に。震災復興支援の経験から生まれた強い“想い”



阿部 幹也さん
Mikiya Abe
千葉大学医学部医学科

1. 阿部さんは東京大学理学部を卒業後、埼玉県庁に入庁され、その後千葉大学医学部に編入されたそうですね。その決意の理由を教えてください。

広く地域の方の支援をしたいと思い、就職先として埼玉県庁を選びました。入庁後は環境分野の業務に携わっていましたが、2011年に発生した東日本大震災の復興支援のため、一年間、福島県庁で勤務する機会を得ました。現地では立入が制限されている区域の調査など、様々な経験をしました。その一つとして、生活再建に向けた住民懇談会に参加し、住民の方に直接話を伺うことができました。また、福島県内の子どもたちを対象にしたボランティア活動を通して、たくさんの方々と交流を持ちました。このなかで一人ひとりの想いや悩みに直接寄り添えるようになりたいと感じるようになり、社会人から医師へのキャリアチェンジを決めました。もちろん大いに悩みましたが、医師こそが自分の想いを叶えられる職業であると考え、医学部編入を決意しました。

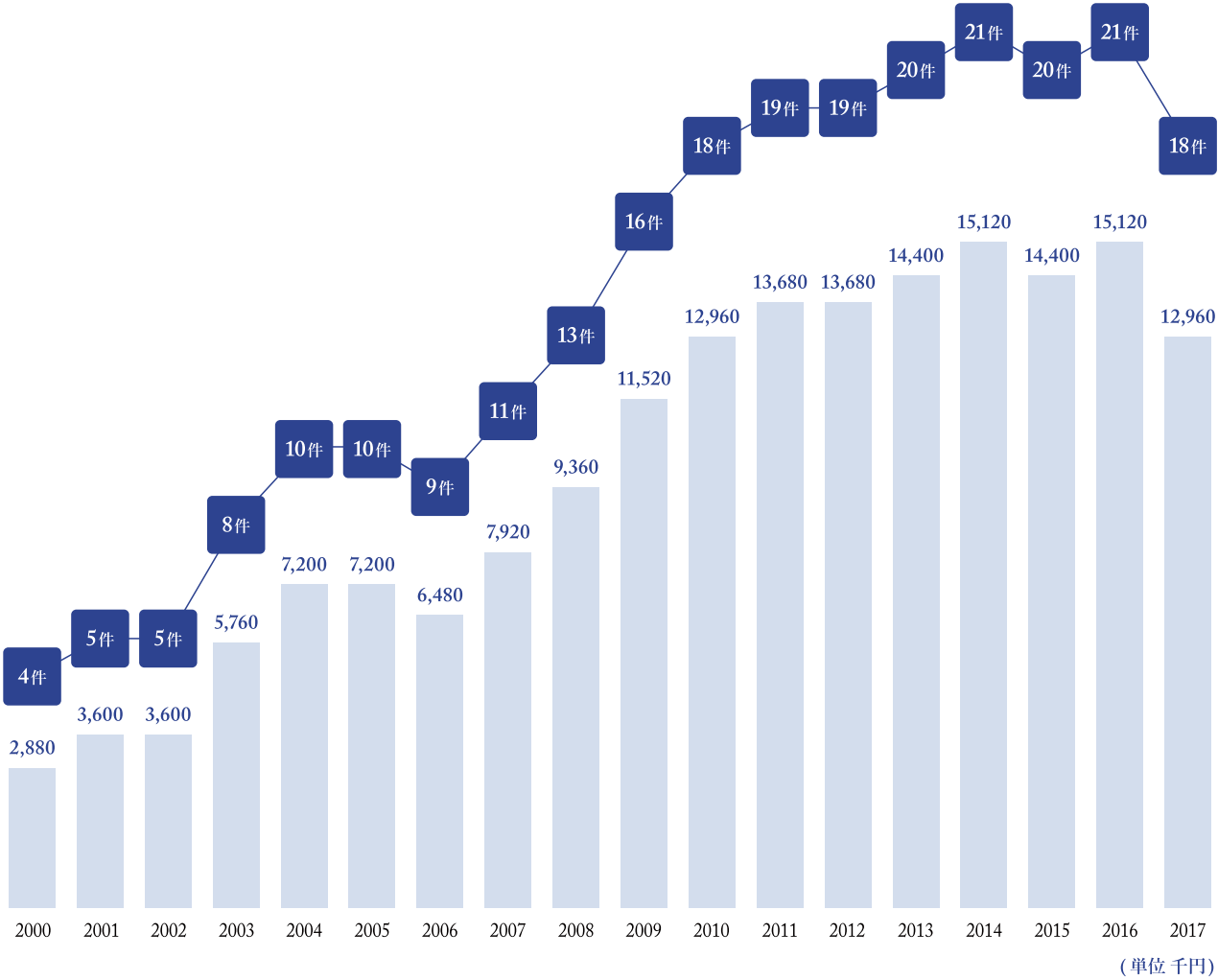
2. 小児医学界で活躍されている研究者の方から直接話を聞くことのできる機会を設けたいという考えで、奨学生の皆さんを助成研究成果発表会・川野賞贈呈式に招待しています。実際に参加されて、感じたことがあれば教えてください。

助成研究成果発表会では最新の小児医学の研究成果を聞くことができ、見識を深められました。また、研究者の方と直接話をする中で、テーマの着想のきっかけや今後の研究展開など、詳しい内容を伺うことができました。小児医学はテーマが幅広いと感じたので、現在の自身の興味にこだわらず、広い分野に目を向けるように努力したいと思います。大学では今年度から、小児医学を含めた臨床医学の講義が始まります。それに先立ち、今回の会に参加できたことで小児医学への思いが強くなりました。

3. 卒業後のご自身の夢と、その夢に向かって学生生活で取り組んでいきたいことがあれば教えてください。

先述のとおり、人の想いや悩みに直接寄り添うことができる医師になれるよう、まずは医学の勉強にしっかり取り組みたいと思います。また公務員として働いていたことを活かして、将来的には学校保健や母子保健など公衆衛生の行政施策にも、自身の経験を還元したいと考えています。

これまでの実績



※1990年から貸与型を開始、2010年から給付型を開始し、2015年からは給付型のみ

3 小児医学川野賞

2017年度は、基礎医学分野4名・臨床社会学分6名の応募があり、2017年12月9日に選考委員会を開催しました。基礎医学分野にて賞の贈呈に値する研究者の方が2名いらっしゃったため、基礎医学分野では国立感染症研究所 竹田先生および国立成育医療研究センター 深見先生、臨床社会医学分野では日本大学 森岡先生の3名に贈呈しました。

2017年度 小児医学川野賞贈呈式の様子



受賞者インタビュー

死に至ることもある怖い病“麻疹”。その原因解明と流行阻止に挑む



竹田 誠 先生

Makoto Takeda

国立感染症研究所ウイルス第三部

1. ご研究テーマを教えてください。

「麻疹ウイルスの病原性発現ならびに流行に関する分子基盤の解析」です。

2. 麻疹ウイルスの怖さについて教えてください。

麻疹ウイルスは、身体中にある免疫を司る細胞や上皮の細胞に感染するウイルスです。その感染力は呼吸器から感染するウイルスの中でも最強です。致死率も高く、途上国だと感染者の約5%の方が死

亡することも珍しくありません。日本でも感染者の数百人に1人は死亡すると言われています。今でも、世界の子どもの死亡原因において上位に位置しています。また、感染した子どもの数万人に1人は、脳に麻疹ウイルスが感染し、遅発性の脳炎が発症し、死に至ります。残念ながら、まだ、麻疹も遅発性の脳炎も治療する薬はありません。

3. 麻疹で苦しむ子どもたちを減らすために、どのような研究をされているか教えてください。

麻疹ウイルスがどのような仕組みで病気を起こしているのかを解明するための研究を行っています。同時に、麻疹ウイルスの毒性を弱めた生ワクチンの安全性の仕組みを明らかにする研究も行っています。それにより、科学的な根拠をもって、将来を見据えた麻疹への対策を立てることができると考えています。また、全国の地方衛生

研究所の皆様と協力し、日本で流行している麻疹ウイルスについて調べて、流行の原因調査などを行っています。

4. 麻疹予防で大切なことを教えてください。

麻疹は非常に怖い病気ですが、安全性も有効性も大変優れた生ワクチンが開発されています。そのため、一人ひとりが予防をすることは比較的簡単です。麻疹ウイルスは人から人にしか伝播しません。ですから、全員がワクチンの接種を受ければ、麻疹で苦しむ人たちをこの地球上からなくすことができます。自分や自分の子どもを守ることはもちろんのこと、社会の一員として、麻疹ウイルスを自分たちの周りから締め出すために、ワクチンを積極的に接種しましょう。

Interview

受賞者インタビュー

最新の遺伝子解析技術を活用し、難病に苦しむ子どもたちを救いたい



深見 真紀 先生

Maki Fukami

研究開発法人国立成育医療研究センター
分子内分泌研究部

1. ご研究テーマを教えてください。

「小児内分泌疾患の分子生物学的研究」です。

2. 深見先生のご研究はどのような難病に苦しむ子どもたちを対象とされているのか教えてください。

私たちは、胎児期や小児期に発症する様々な疾患をもっている子どもたちを対象に研究を

行っています。とくに、低身長症などのホルモンに関する疾患について詳しく研究しています。

3. どのような方法で、難病の原因を解明しようとしているのでしょうか。

私たちの研究部では、日本全国や海外の病院から、疾患の原因が分からない患者さんの血液や組織、細胞などの臨床検体を頂いています。その検体を次世代シーケンサーやアレイCGHといった、最新の遺伝子解析技術を使って解析しています。疾患の原因と考えられる遺伝子変化が見つかった場合は、コンピューターを使った解析や細胞実験、マウスの実験などを行い、疾患が発症するメカニズムを解明します。この成果を活用して、新たな診断法や治療法を開発することを目指しています。さらに、病気の発症や重症化を引き起こす環境因子についても研究を進めています。

4. これまでのご研究を踏まえて、今後どのような研究をされていきたいか教えてください。

難病に苦しむ子どもたちが一人でも多く、速やかな診断や適切な治療を受けられるよう、研究を発展させていきたいと思っています。現在でも原因不明の疾患が多くありますが、新たに開発された技術を使うことによって、これまで見つけられなかった様々な遺伝子変化が見つかることを期待しています。

同時に、疾患をもっていない子どもたちの成長に関する研究を進めていく予定です。とくに、人間の体の構造、成長パターン、染色体のたちなどには、従来考えられているより、多くの個人差があることを示していきたいと思っています。さらに、身長や思春期開始年齢の個人差を生み出す遺伝的因子や環境因子のような、ひとの多様性を形作る因子の発見などにも取り組んでいきたいです。

これらの研究により、すべての子どもたちが自分と他人の個性を尊重できるような社会づくりに、少しでも貢献したいと考えています。

Interview



これまでの実績

回／年度	氏名／所属機関
第1回／2000年度	奥山 眞紀子／埼玉県立小児医療センター

回／年度	氏名／所属機関	
	小児基礎医学	小児臨床・社会医学
第2回／2001年度	林 泰秀／東京大学医学部小児科 長谷川 奉延／慶應義塾大学医学部小児科	平岡 政弘／福井医科大学小児科
第3回／2002年度	廣瀬 伸一／福岡大学医学部小児科	大井 静雄／東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
第4回／2003年度	緒方 勤／国立成育医療センター研究所	吉川 徳茂／和歌山県立医科大学小児科
第5回／2004年度	斎藤 博久／国立成育医療センター研究所	加治 正行／静岡県立こども病院
第6回／2005年度	伏木 信次／京都府立医科大学大学院医学研究科	
第7回／2006年度	大橋 十也／東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所	夏目 長門／愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第8回／2007年度	峯岸 克行／東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学 塚原 宏一／福井大学医学部付属病院小児科	山高 篤行／順天堂大学医学部小児外科
第9回／2008年度	金子 英雄／岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター	小崎 健次郎／慶応義塾大学医学部小児科学教室
第10回／2009年度	深尾 敏幸／岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学	高橋 幸利／国立病院機構静岡でんかん・神経医療センター
第11回／2010年度	先崎 秀明／埼玉医科大学国際医療センター	海老澤 元宏／国立病院機構相模原病院臨床研究センター
第12回／2011年度	下澤 伸行／岐阜大学生命科学総合研究支援センター	川崎 幸彦／福島県立医科大学小児科
第13回／2012年度	福田 誠司／島根大学医学部小児科学	加藤 光広／山形大学医学部付属病院小児科
第14回／2013年度	滝田 順子／東京大学大学院医学研究科生殖・発達・加齢医学小児科	浜野 晋一郎／埼玉県立小児医療センター
第15回／2014年度	滝沢 琢己／群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野	高橋 謙造／帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第16回／2015年度	田島 敏広／自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科	家入 里志／鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野
第17回／2016年度	北中 幸子／東京大学大学院医学系研究科小児医学講座	野津 寛大／神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第18回／2017年度	竹田 誠／国立感染症研究所ウイルス第三部 深見 真紀／研究開発法人国立成育医療研究センター分子内内分泌研究部	森岡 一朗／神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門

※敬称略・所属機関は受賞時の機関
※第2回／2001年度以降は小児基礎医学及び小児臨床・社会医学それぞれの分野より選出

受賞者インタビュー

“院内感染”に対する新たな発想が生み出した MRSA 感染対策の新スタンダード



森岡 一朗 先生

Ichiro Morioka

日本大学医学部小児科学系小児科学分野
小児科・新生児病科
受賞時：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学
分野こども急性疾患学部門

1. ご研究テーマを教えてください。

「早産児の黄疸および感染症の診断・管理法
の開発」です。

2. メチシリン耐性黄色ぶどう球菌 (MRSA) は小
さな赤ちゃんに感染すると、重症な場合には死
に至ることもある怖い菌かと思います。森岡先
生は感染予防についてご研究されているわけ

ですが、「NICU内の赤ちゃんにMRSAが伝
播するのは、院外で生まれた赤ちゃんから運
ばれる菌が原因ではないか?」とお考えになっ
た経緯を教えてください。

スタッフ一丸となって院内感染対策に取り組
んでもなお、MRSAの伝播が発生していまし
た。この状況が長く続き、「こんなに頑張ってい
るのにどうして?」とスタッフの感染対策に対する
モチベーションも下がってきました。スタッフの
意識を高めることは感染予防にとって大変重
要ですから、これではいけないと思い、原因解
明のために過去の感染症発症時のデータを
整理したり、成人の院内感染に関する文献を
調べたりしました。その結果、「原因は院外で
生まれた赤ちゃんから運ばれる菌ではない
か?」という発想に到達し、その対策を講ずるこ
とになりました。さらに、単にその結果に安心す
るだけでなく、対策を講ずる前と後を比較し、
研究データを残そうと思いました。

3. ご研究の結果、感染を防ぐために、具体的にど

のような対策がとられるようになったのでしょ
うか。また、どのような改善がみられたか教えてく
ださい。

院外出生でNICUに入院して来る赤ちゃん
は、培養検査でMRSAに感染していないか
分かるまでの間も、入院時からあくまでMRSA
を持っている可能性があるものとして、先制的
に感染対策を講ずるようにしました。具体的
には、通常の手指衛生に加えて、ガウン・手袋
着用、隔離に準じたスペースでの管理を行いま
した。その結果は想定以上に大きく、院外出
生して入院して来る赤ちゃんからMRSAの拡
散を防ぐだけでなく、NICUスタッフの感染対
策への意識向上にも繋がり、MRSAの蔓延を
終息することができました。これは、私一人で
なし得たものではなく、感染制御部のメンバー、
NICU病棟の看護師をはじめ、病院スタッフ
全員の成果だと思っています。さらに、この考
え方や管理方法が多くのNICUに広がり一
般診療化したことは、多くの先生が評価してく
れた証であり、大変嬉しく思っています。

Interview

4 医学会助成

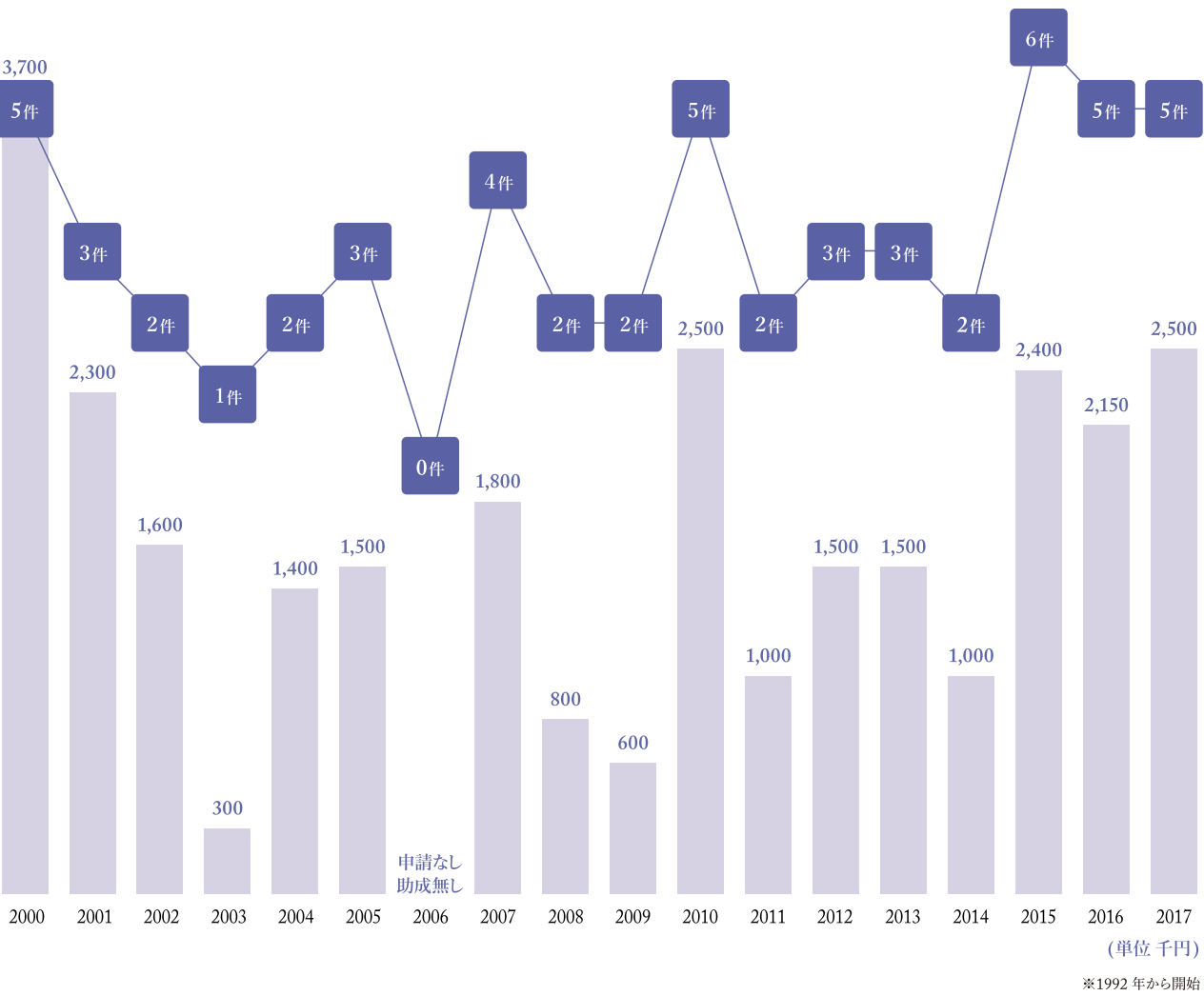
助成先一覧

2017年度は、5件の医学会に対して総額2,500千円の助成金を交付しました。

学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第59回 日本小児神経学会学術集会	2017年 6月15～17日	大阪国際会議場	500
第59回 日本先天代謝異常学会総会 第15回 アジア先天代謝異常症シンポジウム	2017年 10月12～14日	ウェスタ川越	500
第42回 東日本小児科学会	2017年 11月23日	御茶ノ水ソラシティ	500
第1回 日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会	2018年 1月20・21日	ベルサール神田	500
第24回 日本胎児心臓病学会学術集会	2018年 2月16・17日	ラフレさいたま	500

※開催日順

これまでの実績



第42回東日本小児科学会の様子



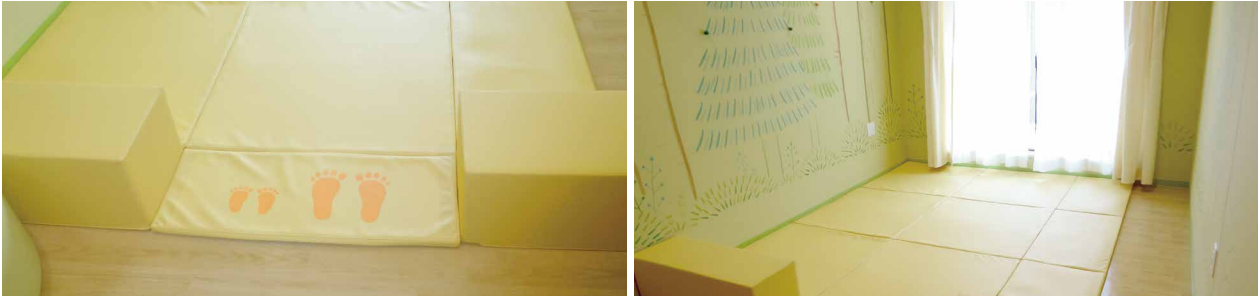
5 小児医療施設支援

助成先一覧

2017年度は、5件の小児医療施設に対して総額500千円の助成金を交付しました。

施設名	用途	交付額(千円)
独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院	積極的な小児救急医療の実施により入院数が増加しているため、病棟用サークルベッドを購入	100
防衛医科大学校病院	入院している子どもたちがブレイルームや個室で安全に心地よく過ごせるように、フロアマットやサイドガードを購入	100
さいたま赤十字病院		100
埼玉県立小児医療センター		100
自治医科大学附属さいたま医療センター	NICUに面会に来る両親や祖父母がより快適に赤ちゃんとお過ごせるように、院外で撮影してきたきょうだいや家族の動画を赤ちゃんと一緒に見ることのできるBD・DVDプレーヤーを購入	100

さいたま赤十字病院ブレイルームの様子



研究助成

交付者一覧

2018 年度は、一般枠 48 名・若手枠 47 名の応募があり、2018 年 3 月 10 日に開催した選考委員会の結果、一般枠 19 名・若手枠 19 名の計 38 名の研究者の方に総額 45,300 千円の助成金を交付することが決定しました。

[一般枠 19 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
高木 正稔	東京医科歯科大学医歯学総合研究科 茨城県小児周産期地域医療学講座・小児科 「小児リンパ系腫瘍の疾患感受性遺伝子探索」	3,000
芦田 浩	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科細菌感染制御学分野 「腸管病原細菌による宿主細胞死制御機構の解明」	2,000
金井 貴志	防衛医科大学校小児科学講座 「川崎病における好中球細胞外トラップ (NETs) 形成機構の解明と新規重症度マーカーの確立」	2,400
宮野 剛	順天堂大学医学部小児外科学講座 「先天性胆道閉鎖症に対する理論上 100% の診断能を見込む低侵襲検査法の開発 : ICG-Green BA test」	2,400
竹谷 健	島根大学医学部小児科 「慢性肺疾患モデルラットに対する高純度間葉系幹細胞治療の開発」	2,400
柴 徳生	横浜国立大学大学院医学部医学研究科小児科学 「網羅的 DNA メチル化解析による再発難治小児急性骨髄性白血病の病態解明」	1,000
難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科 「高濃度酸素性肺傷害マウスにおけるヒルビン酸脱水素酵素の重要性」	1,500
鹿島田 健一	東京医科歯科大学医学部小児科 「新規トランスクリプトーム解析法を用いた、性分化体細胞分化における転写制御ネットワークの解明」	1,500
仲嶋 一範	慶應義塾大学医学部解剖学教室 「脳神経細胞の種類を生体内で人為的に転換させる試み」	1,500
石塚 佳奈子	名古屋大学医学部附属病院精神科・親と子どもの心療科 「NRXN 1 を起点に自閉スペクトラム症と統合失調症を genotype-to-phenotype で再構築する試み」	1,000

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
安永 正浩	国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター・新薬開発分野 「難治性・治療抵抗性的小児炎症・自己免疫疾患に対する IL-7R 標的療法の開発」	1,500
佐藤 泰司	防衛医科大学校薬理学 「小児麻酔の神経毒性に関する研究」	1,500
梶原 健	埼玉医科大学病院産科・婦人科 「エクソソームを介した母体 - 胎児間相互作用の解明」	1,500
水野 洋介	埼玉医科大学ゲノム医学研究センターゲノム科学部門 「非コード RNA を病因とするミトコンドリア病の新規発症機構の解明」	1,500
後藤 昌英	自治医科大学小児科学 「自閉スペクトラム症の候補遺伝子としてのサーカディアン関連遺伝子と microRNA との関連解析」	1,500
上條 岳彦	埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所 「PRC1 複合体ユビキチンリガーゼ RING を標的とした抗がん剤の開発」	1,500
定方 哲史	国立大学法人群馬大学テニュアトラック普及推進室定方研究室 「脳内における分泌異常と自閉症発症との関連についての解析」	1,500
宮武 聡子	横浜市立大学附属病院遺伝子診療部 「脳小血管病の新規疾患責任遺伝子同定」	1,500
濱田 博喜	岡山理科大学理学院臨床生命科学科食品予防医学研究室 「BBB 透過型エペグノム作用薬による発達障害の新しい治療法の開発」	1,500

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

[若手枠 19 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
高澤 啓	東京医科歯科大学医学部附属病院小児科 「日本人小児先天性重症インスリン抵抗性症候群の臨床像と病態解明」	1,000
藤岡 一路	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野・神戸大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 「胎便性腹膜炎モデルマウスに対する薬物的ヘムオキシゲナーゼ -1 誘導 / 間葉系幹細胞投与併用療法の開発」	1,000
青木 孝浩	千葉大学医学部附属病院小児科 「NKT 細胞の NK 受容体を介した腫瘍認識機構の解明と小児白血病治療への応用」	1,000
吉田 裕輔	防衛医科大学校小児科学講座 「TRAF3 遺伝子異常による免疫不全症の同定と病態解明」	800
大西 峻	国立大学法人鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児外科学 「新生児壊死性腸炎に対するグレリンを用いた実験的予防治療法の開発」	800
星野 愛	東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻発達医学教室 「胃腸炎関連中枢神経合併症における病原側と宿主側要因の検討」	800
越智 崇徳	順天堂大学医学部小児外科学講座 「アミノ酸による小腸腸管マクロファージからの IL-10 産生制御メカニズムの解明」	800
上田 理誉	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部 「小児注意欠如多動症における情動調節不全の発症機構の解明」	800
今井 一男	埼玉医科大学医学部感染症科・感染制御科 「妊娠中梅毒の抗菌薬選択に応用可能なマクロライド耐性梅毒トレポネーマの簡易検出法の開発」	800
辻本 信一	横浜市立大学医学部附属病院発生成育小児医療学講座 「造血細胞移植時の血管内皮細胞障害の血清マーカーの同定とリコンビナントロンボモジュリンの効果判定マーカーの検索」	800

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

2018 年度 研究助成選考委員会の様子



2 奨学金給付

2018 年度 奨学金

給付者一覧

2018 年度は、新規 4 名・継続 15 名の計 19 名の医学生に対して、総額 13,680 千円の奨学金を給付することが決定しました。

〔新規給付 4 名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
東北大学	1	720
東北医科薬科大学	1	720
名古屋大学	1	720
福島県立医科大学	1	720

〔継続給付 15 名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	3	2,160
岡山大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	3	2,160
島根大学	3	2,160
順天堂大学	1	720
千葉大学	1	720
獨協医科大学	1	720
福島県立医科大学	1	720

※五十音順

3 2018 年度の募集について

今年度の募集について

募集概要

2018 年度は、以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団 HP をご確認ください。

 2018 年度小児医学川野賞	
対象分野	小児医学、ことに基礎医学および臨床・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2019 年 3 月 31 日時点で 55 歳以下の者 (2) 所属する学会もしくは組織の責任者より推薦を得られた者
顕彰	賞状、メダルおよび賞金 100 万円
募集期間	2018 年 8 ～ 10 月末頃予定

 2018 年度小児医療施設支援	
応募資格	原則として埼玉県にある医療施設
助成内容	15 万円以内／件
募集期間	2018 年 9 ～ 11 月末頃予定

 2019 年度研究助成	
対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、臨床および社会医学的研究 ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 以下の条件を満たす者が主任研究者または共同研究者にいること 埼玉県内の高校を卒業し、または首都圏内に在住し、かつ日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事する者 (2) 申請者が、所属する組織の責任者から推薦を受けていること
助成内容	〈一般枠〉100 ～ 300 万円以内／件 〈若手枠〉100 万円以内／件
募集期間	2018 年 9 ～ 11 月末頃予定

 2019 年度医学会助成	
応募資格	小児医学に関連する医学会であること
助成内容	50 万円以内／件
募集期間	後日 HP にて発表予定

役員・評議員・選考委員一覧

[理事]	[評議員]	[選考委員]
理事長 川野 幸夫 株式会社ヤオコー / 代表取締役会長	川野 清巳 株式会社ヤオコー / 相談役	雨宮 伸 埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷 / センター長
常務理事 柳澤 正義 国立成育医療研究センター / 名誉総長	川野 澄人 株式会社ヤオコー / 代表取締役社長	奥山 眞紀子 国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部 / 部長
川野 光世 株式会社川野商事 / 代表取締役	利根 忠博 一般社団法人埼玉県法人会連合会 / 会長 埼玉りそな銀行 / 元会長・社長	河野 陽一 独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院 / 院長
吉野 芳夫 伊藤忠商事株式会社 / 理事	村井 満 公益社団法人日本プロサッカーリーグ / チェアマン	坂本 穆彦 大森赤十字病院 / 顧問
新井 一 順天堂大学 / 学長	高篠 包 高篠・柿沼・一川法律事務所 / 弁護士	城 宏輔 医療法人すずき小児科 / 院長
上池 昌伸 株式会社ヤオコー / 常務取締役	森川 昭廣 社会福祉法人希望の家附属 北関東アレルギー研究所 / 所長	貫井 英明 山梨大学 / 名誉教授・名誉顧問
	※敬称略・順不同	野々山 恵章 防衛医科大学校小児科学講座 / 教授
[監事]		林 泰秀 上武大学 / 副学長
杉田 圭三 株式会社 CWM 総合経営研究所 / 取締役会長		桃井 眞里子 自治医科大学 / 名誉教授
原 敏成 武州瓦斯株式会社 / 代表取締役社長		山縣 然太郎 山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 / 教授
		山城 雄一郎 順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座 / 特任教授
	※敬称略・順不同	※ 敬称略・五十音順

2018 年 6 月 13 日現在

ご 寄 附 の お 願 い

小児医学の発展により元気な子どもたちを増やしたい、という当財団の想いにご賛同いただき、お力添えいただけますと誠に幸いです。ご寄付いただける場合には以下の通りお願いできればと存じます。

1	当財団ホームページより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項を記入の上、下記まで郵送またはFaxにてお送りください 郵送の方：〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町 1-5 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛 Fax の方：049-246-7006
2	銀行等より、ご寄附をお振込みください
3	ご寄附の振込を当財団にて確認後、お礼状・領収書・寄附控除のご案内を送付致します
4	税金の控除等を受けるためのお手続きをお願い致します 個人の場合：ご寄附をされた翌年の 2 月 16 日～3 月 15 日までに税務署宛てに確定申告手続き行ってください 法人の場合：ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください

医学書ご寄附について

当財団の奨学生のために医学書寄附をお願いしております。

ご寄附の流れ	ご寄附いただける医学書がありましたら以下までご連絡ください 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛 Tel：049-247-1717 Mail：info@kawanozaidan.or.jp
受付期間	2018 年 8 月 1 日～ 2019 年 1 月 31 日
注意事項	・医学書のみ可、コピー等は不可とさせていただきます ・ご寄附いただいた医学書は、返却できませんのでご了承ください





公益財団法人

川野小児医学奨学財団

〒350-1123

埼玉県川越市脇田本町 1-5

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp

Facebook: <https://fb.com/KawanoZaidan>